

学会だより

集会の案内

◇ 平成 20 年度農研機構シンポジウム「21 世紀における大豆生産性の向上戦略」

開催日時：2009 年 3 月 29 日（日）9:30～17:00

開催場所：つくば国際会議場 エポカルつくば 中ホール 200（茨城県つくば市竹園 2-20-3）

主催：(独) 農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）中央農業総合研究センター

協賛：日本育種学会，日本作物学会

参加無料（事前申し込みは不必要）

プログラム：

9:30～9:40 開会挨拶 農研機構中央農業総合研究センター所長 丸山清明

9:40～12:00 第 1 分科会 生産性向上のための大豆の栽培生理・農学研究の現状と将来戦略

9:40～10:20 「Physiological and environmental limitations on yield: Light and water」Thomas R. Sinclair (North Carolina State University)

10:20～11:00 「Managing light and nitrogen resources for specific environments」Larry C. Purcell (University of Arkansas)

11:00～11:20 「Agronomical and crop-physiological characteristics of Japanese commercial varieties as compared to US modern varieties」白岩立彦（京都大学農学研究科）

11:20～11:40 「Soybean breeding and cultural strategies for changing climate」国分牧衛（東北大学農学研究科）

11:40～12:00 「New technologies for enhancing soybean production in paddy-upland rotated fields」島田信二（農研機構中央農業総合研究センター）

12:00～13:15 昼食

13:15～15:35 第 2 分科会 生産性向上のための大豆育種研究の現状と将来戦略

13:15～13:55 「Soybean yield and genetics」Randall L. Nelson (United States Department of Agriculture, Agricultural Research Service)

13:55～14:35 「Doubling soybean yields in North America by 2030」Andrew D. Nickell (Monsanto Company)

14:35～14:55 「Soybean breeding to stabilize yields in the northernmost island Hokkaido, Japan」田中義則（北海道立十勝農業試験場）

14:55～15:15 「Soybean breeding for high productivity by improving yielding ability」湯本節三（農研機構東北農業研究センター）

15:15～15:35 「To stabilize Japanese soybean production,

what kind of breeding objectives and methods should we emphasize?」羽鹿牧太（農研機構作物研究所）

15:35～15:55 休憩

15:55～16:55 総合討論 司会 農研機構九州沖縄農業研究センター研究管理監 松永亮一

16:55～17:00 閉会挨拶 農研機構作物研究所長 岩永勝

〈シンポジウム事務局〉

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センター大豆生産安定研究チーム (TEL: 029-838-8532, E-mail: daizuseisan@naro.affrc.go.jp)

Web ページ〈<http://narc.naro.affrc.go.jp/event/h21/daizu/index.htm>〉にも案内があります。

研究助成公募の案内

◇ 財団法人タカノ農芸化学研究助成財団 平成 21 年度研究助成対象者募集要領

本財団は、農学、特に農芸化学（生物資源等）に関する学術研究を助成し、もって学術研究の発展に寄与することを目的とし設立されました。本年度も、農芸化学等に関する研究を行っている大学等の研究機関の研究者に対し、研究助成金を交付いたします。特に、若手研究者への助成の枠を設け、今後の当該分野の研究促進に役立ちたいと考えています。平成 21 年度は、次の要領で助成対象者を募集いたします。

1. 研究課題：(1) 穀類並びに豆類の栽培・育種に関する研究，(2) 穀類並びに豆類の品質・成分並びに栄養生理等に関する研究，(3) 穀類並びに豆類の利用及び加工技術に関する研究，(4) 納豆菌等微生物の特性・生成酵素等に関する研究
2. 研究助成対象者：(1) 大学及び短大の研究者（大学院生も含む），(2) 国立試験研究機関の研究者，(3) 公立試験研究機関の研究者，(4) その他本財団が適当と認めた研究者
3. 助成金額：一般研究者 1 件 70 万円を 4 件程度，若手研究者 1 件 30 万円を 4 件程度（昭和 44 年 4 月 1 日以降に生まれた者）
4. 交付時期：平成 21 年 5 月予定
5. 申請手続き方法：当財団所定の申請用紙に必要事項を記入し，平成 21 年 3 月 20 日（必着）までに郵送願います。尚，申請書用紙は，タカノフーズ(株)ホームページ <http://www.takanofoods.co.jp/> 内【タカノ財団について】からダウンロードできます。または，E-mail にお問合せいただけましたら，書類を添付して返信いたします。
6. 申請書請求先及び送付先：〒 311-3411 茨城県小美玉

市野田 1542 (財) タカノ農芸化学研究助成財団
TEL: 0299-58-4363, FAX: 0299-58-3847
E-mail: tazaidan@takanofoods.co.jp

7. その他: 同一研究課題で, 他の団体等へ応募され, かつ, 本年度重複助成となられた場合には, 助成をできない場合がありますのでご注意ください。

談話会だより

◇ 北海道地区

日本育種学会北海道談話会

平成 20 年度日本育種学会北海道談話会年次講演会・総会・シンポジウムは, 日本作物学会北海道談話会と合同で, 平成 20 年 12 月 6 日 (土), 北海道大学農学部において行われた。一般講演では 57 課題の発表が行われた。引き続きシンポジウムが行われ, 参加人数は 90 名程度であった。

(1) 一般講演: 1. イネ小穂の形態形成に関わる突然変異遺伝子の相互作用——*epd(t)(OsMADS6)* と *lhs* (葉化穎不稔, *OsMADS1*)——. 中居練¹・石川隆二²・佐野芳雄¹・高牟禮逸朗¹ (1. 北大院農, 2. 弘前大農学生命科学部) 2. イネ発育停止穂遺伝子 [*rp(t)*] の連鎖分析. 塩飽宏輔・千葉あや乃・中居練・長野宏則・佐野芳雄・高牟禮逸朗 (北大院農) 3. イネ遠縁交雑の交雑不親和現象における雌性側要因の複雑性. 新屋雄平・小出陽平・松原一樹・池永充伸・佐野芳雄 (北大院農) 4. イネの種間で雑種不稔を引き起こす遺伝子座 S_{j3} における新規対立遺伝子 S_{j3}^n . 池ヶ谷智仁・小出陽平・佐野芳雄・金澤章 (北大院農) 5. アジア-アフリカイネ間に見出された雑種不稔遺伝子 S_j の候補領域に存在する遺伝子の多型と発現様式. 荻野篤史・小出陽平・大西一光・西本大祐・Akhil Ranjan Baruah・堀米綾子・金澤章・佐野芳雄 (北大院農) 6. アジアイネにおける連鎖不平衡の解析. 田中匠・紺谷学・佐野芳雄 (北大院農) 7. 北海道のフィールド環境は, 野生イネの生活史戦略に関わる強い遺伝的制約を破壊した. 伊藤勇樹¹・大西一光²・佐野芳雄²・清水博之¹ (1. 北農研・低コスト稲育種, 2. 北大院農・植物育種) 8. 早生化作用を示すイネ出穂期遺伝子 *qDTH3* の特性評価. 藤野賢治・松田康之・関口博史 (ホクレン) 9. 低温発芽性 QTL の遺伝効果と遺伝背景の関係. 岩田夏子・藤野賢治 (ホクレン農業総合研究所) 10. 熱帯ジャポニカ品種 Silewah から新たに見出されたイネ穂ばらみ期耐冷性 QTLs の解析. 大西一光^{1,2}・時園佳朗²・Baruah, AR²・森正彦^{1,3}・品田博史¹・粕谷雅志¹・木下雅文¹・尾崎洋人¹・吉村徹¹・佐野芳雄²・沼尾吉則¹・佐藤毅¹ (1. 上川農業試験場, 2. 北大院農, 3. 現 ICARDA) 11. イネの *rcn4 d10* と *rcn4 rcn1* の二重変異体の形質発現. アリヤラタナモジット¹・高牟禮逸朗²・加藤清明¹ (1. 帯広畜産大, 2. 北大院農) 12. イネの少分げつ変異体 *rcn1* の根の形態的特

徴. 嬉杏奈¹・高牟禮逸朗²・加藤清明¹ (1. 帯広畜産大, 2. 北大院農) 13. イネの少分げつ遺伝子 *rcn5* のマッピング. 清水裕嗣¹・目黒美生¹・木尾さや¹・徳井真由美¹・高牟禮逸朗²・加藤清明¹ (1. 帯広畜産大, 2. 北大院農) 14. 北海道におけるいもち病圃場抵抗性を保持する道内および道外系統の探索. 品田博史・尾崎洋人・佐藤毅 (北海道立上川農業試験場水稲科) 15. 2008 年における北海道水稲の多収・低タンパク質化の要因解析. 田中一生¹・吉村徹²・菅原彰³・其田達也¹ (1. 北海道立中央農業試験場, 2. 北海道立上川農業試験場, 3. 北海道立道南農業試験場) 16. イネの葯培養実験においてカルス形成能のほぼ等しい二群に分けるための穎花内葯二群別培養法. 岡本吉弘・我妻尚広 (酪農学園大学) 17. 2008 年羊ヶ丘圃場における白粒小麦系統の種子休眠性試験. 栗原志保・杉澤良太・吉田孝二 (北海道農業研究センター) 18. コムギ種子休眠性 QTL, *QPhs.ocs-3AS* と候補遺伝子 TmX の精密マッピング. 石田浩規¹・中村信吾²・加藤清明¹・三浦秀穂¹ (1. 帯広畜大, 2. 作物研) 19. 強種子休眠性白粒コムギ系統の地域適応性と発芽温度に対する反応. 澤田拓也¹・佐藤三佳子²・田引正³・西尾善太³・伊藤美環子³・三浦秀穂¹ (1. 帯広畜大, 2. 上川農試, 3. 北農研センター) 20. 白粒コムギ分離集団における種子休眠性の変異と関与する QTL. 藤井雅之¹・佐藤三佳子²・三浦秀穂¹ (1. 帯広畜大, 2. 上川農試) 21. 農林 61 号 Wx 準同質遺伝子系統をもちいた薄力粉特性評価. 宮崎友理¹・西尾善太²・田引正²・伊藤美環子²・山内宏昭²・関晶子³・三浦秀穂¹ (1. 帯広畜大, 2. 北農研センター, 3. 作物研) 22. 春まきコムギの初冬まきおよび春まき栽培における収量構成要素の比較. 佐藤三佳子 (北海道立上川農業試験場) 23. 勝系 63 号 / 北見 81 号に由来する秋まき小麦倍加半数体系統の製パン適性の解析 1. 小麦粉品質および製パン適性に及ぼす子実硬度の影響. 田引正¹・西尾善太¹・伊藤美環子¹・谷尾昌彦¹・船附稚子¹・池田達哉²・伏江幸子³・山内宏昭¹ (1. 北海道農業研究センター, 2. 近畿中国四国農業研究センター, 3. 帯広畜産大学) 24. 勝系 63 号 / 北見 81 号に由来する秋まき小麦倍加半数体系統の製パン適性の解析 2. 高分子量・低分子量グルテニンサブユニット構成と製パン適性との関係. 伏江幸子¹・伊藤美環子²・船附稚子²・西尾善太²・池田達哉³・谷尾昌彦⁴・田引正²・山内宏昭²・小田有二¹ (1. 帯広畜産大学, 2. 北海道農研, 3. 近中四農研, 4. 中央農研) 25. 秋まきコムギ品種「きたほなみ」の高製粉性および良色相の要因解析. 西村努¹・吉村康弘¹・乙部千雅子²・松中仁²・一ノ瀬靖則²・関昌子²・小前幸三² (1. 道立北見農試, 2. 農研機構作物研究所) 26. コムギ萎縮病抵抗性と調査時期の関係. 西尾善太¹・田引正¹・伊藤美環子¹・山内宏昭 (北海道農業研究センター) 27. コムギにおける植物体内生成分と根貫通力との関係. 今津翠¹・岩間和人¹・実山豊¹・市川伸次²・浅沼佳南³ (1. 北大院農, 2. 北大北方生物圏フィールド科学センター, 3. 北大農学部) 28. 「蘇麦 3 号」

由来の赤かび病抵抗性 QTL を導入した秋まき小麦戻し交配系統の農業特性と品質. 小林聡・鈴木孝子・吉村康弘(北海道立北見農業試験場) 29. 春まき小麦における赤かび病抵抗性母本の開発. 川西由紀・筒井一郎・厩田淳史・小笠原美奈子・大上大輔・堺奈々・高橋ルミ子・太田宇香・池口正二郎(ホクレン農業総合研究所作物生産研究室) 30. イネの低アミロース性に関する第6及び第9染色体上の二つの遺伝子の相加効果. 船附稚子¹・松葉修一¹・黒木慎¹・竹内善信²・横上晴郁¹・清水博之¹・安東郁男²(1. 北海道農業研究センター, 2. 作物研究所) 31. 「北海300号」×「はなえまき」F₂集団を用いた第6染色体上の二つのイネ低アミロース性遺伝子の解析. 松葉修一¹・船附稚子¹・黒木慎¹・横上晴郁¹・清水博之¹・安東郁男²(1. 北海道農業研究センター, 2. 作物研究所) 32. 北海道水稲の交雑後代における白米タンパク質およびアミロース含有率のF₄-F₆世代間の相関関係. 梶原靖久¹・平山裕治²・田中一生²・岩間和人¹(1. 北大院農, 2. 北海道立中央農業試験場) 33. バレイショ根優品種とコナブキの根長密度が葉内水分圧と収量に及ぼす影響. 出口哲久¹・田子旭彦¹・Pema Wangchuk¹・納谷拓実²・三浦由美子²・岩間和人¹・実山豊¹・市川伸次³・河合孝雄³(1. 北大院農, 2. 北大農学部, 3. 北大北方生物圏フィールド科学センター) 34. FTSW手法を用いての乾燥条件下におけるバレイショの根吸水能力と気孔反応性の評価. 岩佐倫希¹・三浦紗土²・岩間和人¹・柏木純一¹・実山豊¹・市川伸次³(1. 北大院農, 2. 北大農学部, 3. 北大北方生物圏フィールド科学センター) 35. 酸性電解水を利用した病虫害防除がバレイショの生育および収量に与える影響. 青野桂之¹・岩間和人¹・実山豊¹・市川伸次²(1. 北大院農, 2. 北大北方生物圏フィールド科学センター) 36. 収穫時期が加工用馬鈴しょ品種「きたひめ」の品質に及ぼす影響. 安田慎一・三上晃一郎(ホクレン農業総合研究所) 37. バレイショ全粒種いも生産に向けた種いも予措技術の開発(1)貯蔵期間中の温度処理と欠芽の効果. 辻哲正¹・天野克幸¹・三澤孝¹・宮崎兼嗣¹・森元幸²(1. 種苗管理センター中央農場, 2. 北海道農業研究センター芽室研究拠点) 38. でん粉原料用品種を用いたバレイショ培土簡易化栽培の生産性. 大波正寿・松永浩・鈴木剛(北海道立十勝農業試験場) 39. 栽植密度がマイクロチューバーを種いもとする栽培に及ぼす影響. 津田昌吾・森元幸¹・小林晃¹・向島信宏(北農研) 40. 小豆胚軸長, 下位節間長の遺伝解析. 島田尚典(北海道立十勝農業試験場) 41. 小豆(*Vigna angularis*)のダイズシストセンチュウ抵抗性遺伝資源のスクリーニング. 田澤暁子・島田尚典・青山聡(北海道立十勝農業試験場) 42. 北海道における日米ダイズ品種の収量性, 乾物生産性の比較. 義平大樹¹・森瞳¹・小阪進一¹・本間香貴²・桂圭佑²・白岩立彦²(1. 酪農学園大学, 2. 京都大学大学院農学研究科) 43. ダイズ新育種素材「1532-1」が有する長花梗形質について. 山口直矢¹・大西志全²・山崎敬之³・三好智明¹(1.

十勝農試, 2. 中央農試, 3. 北見農試) 44. ライムギを越冬被覆作物として利用した大豆栽培における雑草対策の開発について. 石川枝津子¹・平直樹¹・小林浩幸²・横田聡¹(1. 北海道農業研究センター, 2. 東北農業研究センター) 45. 有機栽培における雑草の生育がトウモロコシおよびダイズの収量に及ぼす影響. 中村郷久¹・内野宙¹・岩間和人¹・実山豊¹・市川伸次²(1. 北大院農, 2. 北大北方生物圏フィールド科学センター) 46. 播種時期の高温がカバークロープおよび雑草の生育に及ぼす影響. 内野宙¹・中村郷久¹・岩間和人¹・実山豊¹・市川伸次²(1. 北大院農, 2. 北大北方生物圏フィールド科学センター) 47. 網走管内における秋まきなたねの栽培. 五十嵐龍夫¹・今野敏文¹・池田勲²・草間諱³(1. 網走農業改良普及センター, 2. 上川農業改良普及センター, 3. 釧路農業改良普及センター) 48. 東北海道におけるギョウジャニンニクの生態特性. 田丸典彦・木村浩子(北海道教育大学釧路校) 49. 植物ウイルスベクターを用いた遺伝子特異的な転写不活性化系におけるベクター挿入配列の違いに依存した不活性化効率の変化. 河合文珠・太田垣駿吾・増田税・金澤章(北大院農) 50. エピジェネティックな機構による遺伝子特異的な転写不活性化を解除する効果を持つ植物成分. 荒瀬幸子・太田垣駿吾・喜多村啓介・金澤章(北大院農) 51. トランスポゾンが引き起こす変異パターンの解析. 浅野真宏・内山貴子・佐野芳雄・貴島祐治(北大院農) 52. テンサイ近縁種における *Rfl* オルソログの構造解析. 松本拓真・亀井陽子・濱口祐子・久保友彦・三上哲夫(北大院農) 53. 播種時期がテンサイの越冬性と抽苔発生率に与える影響. 中司啓二¹・井内大輔²・岡崎和之¹・秦泉寺敦²・柏木浩二²(1. 北海道農業研究センター, 2. 北海道糖業株式会社) 54. テンサイの抽苔耐性品種の育成に向けて——7年の抽苔データより明らかになったこと. 黒田洋輔・田口和憲・岡崎和之・高橋宙之・阿部英幸(北海道農業研究センター寒地バイオマス研究チーム) 55. 直播テンサイの収量性に播種期及び収穫期が及ぼす影響. 高橋宙之・岡崎和之・田口和憲・黒田洋輔・阿部英幸(北海道農業研究センター) 56. バイオマス原料としてのテンサイ冠部の特性. 岡崎和之・波佐康弘・田口和憲・黒田洋輔・高橋宙之(北海道農業研究センター) 57. トップクロス検定によるテンサイF₁系統の根腐病抵抗性に関する遺伝解析. 田口和憲・岡崎和之・阿部英幸(北海道農業研究センター)

(2) シンポジウム「マーカー選抜を組み入れた実際育種の現状と展望」

基調講演: 水稲育種におけるDNAマーカー育種の利用と体系化. 藤井潔(愛知農総試)

パネルディスカッション: 大豆におけるマーカー育種の現状と今後の展望. 田中義則(十勝農試); てんさいにおけるマーカー育種の現状と今後の展望. 田口和憲(北農研); 小麦種におけるマーカー育種の現状と今後の展望. 鈴木孝子(中央農試); マーカー育種と産官学連携研究に

期待すること。喜多村啓介（北大院農）

久保友彦（北海道大学大学院農学研究院）

◇ 近畿地区

近畿作物・育種研究会

近畿作物・育種研究会第166回例会が、2008年12月13日（土）に神戸大学農学部において開催されました。例会では、以下の18題の一般講演があり、活発な議論が行われました。

一般講演：①シイタケにおける子実体形成不全株の解析。段上輝之・小林優佳・近藤健・種坂英次・吉田元信（近畿大農）②RAPD マーカーを用いたエノキタケの連鎖地図の構築、および電気泳動的核型との関係。本田良太・佐々木紗知・種坂英次・吉田元信（近畿大農）③Phylogenetic relationships among different species of nitrogen fixing *Azolla* with cyanobacterium based on RAPD markers. Sabina Ahmed, Tetsuya Nakazaki, Takuji Tsukiyama, Yutaka Okumoto, and Takatoshi Tanisaka (Grad. Sch. Agr., Kyoto U.) ④湿性植物の通期組織の形態と機能：特にハス葉身中央部の構造について。住友一仁・巽二郎（京都工繊大）⑤油料ヤブツバキの根圏機能、とくにリン可溶性能について。堀内達也・巽二郎（京都工繊大）⑥アジア在来コムギにおける低分子量グルテニンサブユニットの多様性を利用したグルテン物性の改変。加藤舞¹・西中未央¹・奥本裕¹・加藤鎌司²・池田達哉³・石川直幸³・谷坂隆俊¹（1.京大院農, 2.岡山農大, 3.近中四農研）⑦油料作物 *Jatropha curcas* の脂質含量と組織培養による増殖。栗本温子¹・畠中知子¹・深山浩¹・三十尾修司¹・三本木一夫²（1.神戸大学大学院農学研究科, 2.日本植物燃料株式会社）⑧ダイズ単収の日米地域差の拡大要因に関する作物学的調査——米国における視察報告（第1回）——。桂圭佑¹・義平大樹²・本間香貴¹・Larry C. Purcell³・田中朋之¹・白岩立彦¹（1.京大院農, 2.酪農学園大, 3.アーカンソー大）⑨ダイズ種子中イソフラボン含量の簡易測定法を用いた丹波黒ガンマ線種子照射系統のイソフラボン含量に関するスクリーニング。吉川貴徳¹・奥本裕¹・寺井雅一²・山田勝重²・寺石政義¹・谷坂隆俊¹（1.京大院農, 2.フジッコ株式会社）⑩ダイズゲノムデータベースを利用した転移因子の探索。伊藤洋介¹・寺石政義¹・矢野健太郎²・奥本裕¹・谷坂隆俊¹・中崎鉄也¹・北島宣¹（1.京大院農, 2.明治大農）⑪大型水田の飽差の水平分布が水稻の穂重、収量構成要素に及ぼす影響。平井源一¹・中山登²・中條博良³・故³・稲野藤一郎³・平野高⁴・北本貴大²（1.大阪総合保育大学, 2.大教大, 3.大府大農, 4.北大農）⑫水稻品種「レーク65」の直播適性と播種適量について。中川淳也（滋賀県農業技術振興センター）⑬小孢子期の地下部冷水処理は種子稔性を著しく低下させる。于占芹・奥本裕・岸本直也・山本匠・谷坂隆俊（京大院農）⑭ Differential distribution of miniature

inverted-repeat transposable elements in wild rices. Shanta Karki, Takuji Tsukiyama, Yutaka Okumoto, Govinda Rizal, and Takatoshi Tanisaka (Grad. Sch. Agr., Kyoto U.) ⑮イネ品種銀坊主における自律性転移因子 *Ping* の特異的発現。門田有希¹・内藤健²・築山拓司¹・奥本裕¹・谷坂隆俊¹（1.京大院農, 2.ジョージア大）⑯開放系大気 CO₂ 濃度増加条件 (FACE) で育成したイネの遺伝子発現プロファイリング。深山浩¹・福田琢哉²・長谷川利拡³・宮尾光恵²・畠中知子¹・三十尾修司¹（1.神戸大学大学院農学研究科, 2.農業生物資源研究所, 3.農業環境技術研究所）⑰ミャンマーおよびカンボジアにおける野生イネ (*O. rufipogon*) 自生集団の遺伝的多様性の解明。蔭山宏樹¹・秋本正博²・宍戸理恵子³・U Than Sein⁴・U Tin Htut⁴・Men Sarom⁵・佐藤雅志⁶・石井尊生¹（1.神大農, 2.帯広畜産大, 3.日大生物資源, 4.ミャンマー農業灌漑, 5.カンボジア農務省, 6.東北大農）⑱ベトナム在来イネ品種群における遺伝的多様性の解明。平岡尚・池田延行・石井尊生（神大農）

築山拓司（京都大学大学院農学研究科）

◇ 中国・四国地区

山陽育種談話会

2008年12月6日に山陽育種談話会を倉敷芸文館において開催した。今回はムギ類研究会との共同開催であり、参加人数は80名。プログラムは下記の通りである。

また、山陽地区だけでなく中国地区会員間での研究交流を活性化するために、山陽育種談話会を発展的に解消し、日本育種学会中国地域育種談話会を新たに設けることが決まり、会長（前川雅彦）、幹事（加藤鎌司、辻本壽、小林伸雄、高田兼則、丹野研一、佐藤和広）、会計監査（武田真）の各役員を選出した。

特別講演：オオムギ遺伝研究のことなど：武田和義（岡山大学資源生物科学研究所）；DFR 遺伝子からみたコムギの進化：野田和彦（岡山大学資源生物科学研究所）

加藤鎌司（岡山大学大学院自然科学研究科）

日本育種学会四国談話会

2008年11月27, 28日に育種学会四国談話会講演会（第73回）およびシンポジウム（作物学会四国支部と共催）を香南市吉川総合センターにおいて開催した。それぞれの参加人数は20名、80名であり、プログラムは下記の通りである。

シンポジウム（2008年11月27日（木）13:00～16:15）テーマ：「四国における地域特産化を目指した品種育成と栽培技術」：①サトイモ「愛媛農試V2号」の育成と産地振興。浅海英記（愛媛県農林水産研究所）②さぬきうどん用小麦の選抜技術について。本田雄一（香川県農業試験場）③中山間地域に適した四季成り性イチゴ新品種「サマーフェアリー」の育成。林純二（徳島県立農林水産総

合技術支援センター) ④高知県におけるグロリオサの育種. 石井敬子・松本満夫(高知県農業技術センター) ⑤高温耐性品種‘にこまる’の育成過程と普及. 坂井真(独)農研機構九州沖縄農業研究センター筑後水田作研究拠点)

日本育種学会四国談話会講演会(第73回)(2008年11月28日(金)8:30~11:30): ①多収な遺伝的背景において稲遺伝子 *Urr1* が収量性と出穂後の同化産物移行量に及ぼす作用. 早川宗志¹・岩倉匠²・川原田直也²・竹村泰雄²・浦部光治²・村井正之²(1.愛媛大学大学院連合農学研究科, 2.高知大学農学部) ②ニオイエビネの倍数体品種について. 徳原彩香¹・片山勝頼²・日詰雅博³・山口聰¹(1.愛媛大学農学部, 2.片山園芸, 3.愛媛大学教育学部) ③ツバキの生長点培養における外植体採取時期の影響. 徳原彩香(愛媛大学農学部) ④カーネーション栽培における茶殻堆肥施用の効果について. 檜垣まきこ(愛媛大学農学部) ⑤皿が峰に自生する *Corydalis* 類の種生物学的研究. 崎須賀章子(愛媛大学農学部) ⑥プリムラの葉挿し繁殖について. 池田佳珠・辛島伸幸・山口聰(愛媛大学農学部) ⑦ノコンギク育成系統の矮化剤利用による鉢物化試験. 辛島伸幸・池田佳珠・山口聰(愛媛大学農学部) ⑧緑茶遺伝資源評価における, 中日両国の嗜好性の違い. 山口聰¹・陳亮²(1.愛媛大学農学部, 2.中国農科院茶葉研) ⑨Heterosis of *Brassica juncea* using cytoplasmic male sterility. Chang, C. T., Y. Yokoyama, K. Tokui, F. Kakihara, M. Kato (Fac. Agric. Ehime U.) ⑩水稻酒米新品種「しづく媛」の育成. 兼頭明宏¹・鳥生誠二²・秋山勉³・三好大介¹・浅海英記¹(1.愛媛県農林水産研究所, 2.中予地方局産業振興課, 3.東予地方局産業振興課) ⑪やまのいも新品種「やまじ王」の育成. 浅海英記¹・玉置学²(1.愛媛県農林水産研究所, 2.垣本商事株式会社) ⑫フローサイトメトリー法によるデルフィニウム属植物の花粉粒の識別. 岡本充智(愛媛県農林水産研究所) ⑬バラの低温伸長性台木による化石燃料削減技術の開発. 藤堂太(愛媛県農林水産研究所) ⑭大麦のSSRマーカーは品種判別に利用できる. 栗坂信之・岡本充智・藤堂太(愛媛県農林水産研究所)

村井正之(高知大学農学部)

日本育種学会会員異動(2008.10.21~2009.1.20)

◇普通会員入会: 宗形信也, 保田浩, 山口直矢(北海道), 小薬清美, 松村英生(岩手), 伊藤幸代, 小木曾映里, 北川晴三, SANTOSO, 竹本陽子, 堀川明彦(茨城), 春山直人(栃木), 石川寿樹, 笠島一郎(埼玉), 佐々木忠将, 下地格(千葉), VO CONG THANH(東京), 上原泰(長野), 宇賀神勉, 齋藤武範, 新濱充, 山木辰一郎(静岡), 河村耕史(兵庫), 牛島幸一郎(岡山), 丹野研一(山口)

◇学生会員入会: 嬉杏奈, 清水裕嗣, MOJITH ARIYARATNA(北海道), 徐海燕(青森), 熊谷成子, 龍崎菜々, 本多のぞみ(岩手), AHMAD DAWOOD, EL MANNAI YOUSRA, KHAN MOHAMMAD SAYYAR, 讃岐温子, 高山梓, BHANDARI JANAKI KAPHLE, 吉屋康太, LELMEN ELIJAH KIPKORIR(茨城), 筒井康太, 殿崎薫, 道場和也(栃木), ANH THY CHAU THI, WIN KHIN THUZAR, 角谷直紀, 佐野直人, 田中若奈, PACHAKKIL KALARI THOTATHIL BABIL, 増田寛志, 山崎聡, IMENE RAJHI(東京), 田口稜, 丹羽紗也佳, 宮崎達也, 安諸茉莉子(神奈川), 藤原佑紀(福井), MD. ASADUZZAMAN, 朴永俊(長野), 塩田浩喜, 出口崇, 福井聡子(愛知), 遠藤亮太, 向井勇人, 山本裕範(京都), 芝井哲史, 吉田香織(岡山), 堀内和奈(佐賀), 菊池悦男, 近藤尚揚(熊本), 甲斐彩友美, 氷室泰代(宮崎)

◇外国会員入会: 林正玄(大韓民国)

◇団体会員入会: (独)国立環境研究所環境情報センター情報管理室(図書室)(茨城)

住所変更等

◇普通会員: 小堀智史, 高木恭子, 中住晴彦, 西尾善太(北海道), 由比進(岩手), 金會澤, 渡辺啓史(茨城), 高山敏之(栃木), 保木健宏(群馬), 小出陽平(千葉), 岡田英孝, 近藤勝彦(神奈川), 鯨幸夫(石川), 寺石政義(京都), 中崎鉄也(大阪), 甲斐浩臣, 保田謙太郎(福岡), 松岡秀道(熊本)

◇学生会員: 鈴木幹奈(千葉), SUKHUMPINIJ PORNPAN(愛媛)